

2002年6月11日

ゼネラルモーターズ、富士重、いすゞ、スズキ、

特定品目の購買に関する共同チームを発足

米ゼネラルモーターズ・コーポレーション（以下GM）、富士重工業株式会社（以下富士重）、いすゞ自動車株式会社（以下いすゞ）、スズキ株式会社（以下スズキ）の四社は、このほど、特定の部品、コンポーネンツ、及びサービスの購買に関する共同チームを発足した。

この共同チームは、Alliance Purchasing Team（略称APT）と呼ばれ、今後都内に事務所を開設し、各社から派遣される代表者により業務を開始する。

APTは当初、ガラス、ジェネレーター、スターター、平鋼板、貴金属、触媒用担体、スピーカー、アンテナ、電気リレー、ホーン、スチール及びアルミホイール、（冷却水）ホースの合計12品目を購買対象とし、その取引額はおよそ14億ドル（約1,750億円）（注）を見込んでいる。なお、APTが管轄する範囲は、富士重、いすゞ、及びスズキの日本における事業、及びGMのアジア大洋州事業となる。（注）1ドル124円で換算。

APTは、GMの世界購買プロセス（以下WWP）を採用し、WWPが定める、品質、サービス、技術、及び価格の評価基準に従ってサプライヤーを選択する。APTは今後、新規部品のサプライヤー選定などの業務を担当するが、対象部品に関する原価低減等の日常管理及び対象外の購買品目については、引き続き各社ごとに管理・運営される。

GM上席副社長兼GMアジアパシフィック社長、フレデリック・A・ヘンダーソンは、「これは我々GMグループの偉大なる協業成果の一例。我々は、購買領域における人的資源の共有化で、大幅なコスト低減と、サプライヤーのさらなる品質向上と効率化を促すことが可能になり各社の競争力強化を実現できる。また、サプライヤーは、複数社へ供給を拡大する機会を得ることが可能となる」と語った。

GMはスズキ及び富士重の株式を各々20%保有、そしていすゞの株式を48.45%を保有している。そして四社は、日本及び世界中で様々な共同プロジェクトを展開している。

以上